

論文審査結果の要旨

報告番号	乙 第 3173 号	氏名	本間 織重
論文審査担当者	主査 三村 洋美 副査 伊藤 純治 副査 富田 真佐子		
<p>論文題名： Verification of the usefulness of assessment and risk control sheet that promotes management of cancer drug therapy</p> <p>掲載雑誌名：Frontiers in Pharmacology (February 2022,Vo13 掲載予定)</p> <p>本学位論文の研究目的は、Assessment and Risk Control (以下 ARC) シートの有用性や改善点を明らかにすることを目的としている。看護師による ARC シートを活用した問診による治療のインターバルにおける体調変化の評価と、安全で効果的ながん薬物療法の実施に関して検討を行っている。</p> <p>対象は、がん薬物療法を受けた腫瘍内科外来受診患者で ARC シート使用群 144 名、使用なし群 30 名の計 174 名で分析の対象としたのは 160 名である。患者アンケートの内容は、①治療の有害事象の伝えやすさ②コミュニケーションのしやすさ③問診の適格さ④看護師の対応への安心感⑤診察前問診を受ける仕組みの 5 つであり 5 段階で評価をしている。</p> <p>ARC シートの使用群と使用なし群を比較すると、ARC シートの使用群で有意に味覚障害 ($p=0.003$) と口内炎 ($p=0.017$) の症状を医療者に伝えやすいと回答していた。がん薬物療法当日の有害事象とインターバルの有害事象の症状の把握に大きな差はないが、ARC シートの使用によって、grade0,1 の“症状なし”あるいは、“軽度”も総合的に記載がされたていた。</p> <p>ARC シートの使用は、口内炎と味覚障害の把握に有用であり、かつ、CTCAE の grade0,1 の有害事象も網羅的に評価が可能となる。看護師による問診と ARC シートを組み合わせることで、積極的に語られない有害事象も拾いあげることができることが可能となる。</p> <p>今後も、ARC シートのさらなる精練と安全で効果的ながん薬物療法のための看護介入方法の開発を目指した研究を継続するということである。本研究結果は、保健医療分野の臨床看護の実践に大きく寄与する有用な知見であり、保健医療学の学術に寄与するものであると判断した。</p> <p>本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。</p>			